

東京電力 若手社員 × 高校生 interview

見学ツアーの最後に、高校生たちは福島第一原発で働く2人の社員にインタビューをしました。さて社員はどんな思いで働き、高校生は何を感じたのでしょうか？



大好きな地元を  
みんなで復興させたい



東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一原子力発電所  
燃料デブリ取り出しプログラム部  
業務統括室 総務グループ  
佐藤 亮太さん

私たちには、ここで働く意義がある



東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一原子力発電所  
燃料デブリ取り出しプログラム部  
小規模取り出し検討PJグループ  
竹中 瑠奈さん

学んだ知識を活かし  
廃炉に貢献する



Q 現在の仕事のやりがい？

A 私は福島第一原発の総務グループに所属し、現場の環境整備や工事の管理、各部署の要望対応などを行っています。発電所全体の運営を支える「何でも屋」のような仕事です。さまざまな部署の要望に応じて作業環境を改善し、それが目に見える形で実現されるのが一番のやりがいです。



Q 仕事を通じて得た最大の学びは？

A 「分からないことは積極的に質問する」ということです。入社当初は何が分からないのかも分からない状態でしたが、先輩にどんどん質問することで知識が深まりました。現在は先輩ができて、自分が学んだことをしっかり伝えていくことの大切さを実感しています。また、社内にはさまざまなタイプの人がありますが、それぞれのよい部分を学び取って、自分なりのやり方で後輩に伝えていきたいです。



Q 今後の目標や福島への思いを聞かせてください。

A 私は地元・福島に貢献したいという強い思いでこの仕事に取り組んでいます。会社としては、安全に確実に廃炉を進めることが使命です。その過程を実際に見てもらい、「廃炉は着実に進んでいる」と感じてもらえるよう努めます。個人としては、福島を誇りをもって発信し、多くの人に「福島っていいところだな」と思ってもらえるような活動をしていきたいですね。また、総務の仕事には非効率な業務が多いため、デジタル化を進め、より働きやすい環境を整えることにも挑戦していきたいです。



Q 入社を決めた理由は？

A 私は中学2年生のときに東日本大震災を経験し、東北の復興に貢献したいと強く思うようになりました。そのために自分ができることは何かと考え、大学では原子力や廃炉に関する学問を専攻しました。廃炉作業は長期にわたる大きな課題ですが、自分の力を少しでも役立てたいと思い、福島第一原発での仕事を志しました。



Q 現在の仕事の魅力は？

A 私は燃料デブリの取り出しに関する小規模取り出し検討グループに所属しています。燃料デブリは事故で溶け落ちた燃料と構造物の混合物で、放射線量が高く、人が直接作業することはできないため遠隔でロボットアームを動かして取り出します。昨年、初めて試験的にデブリを取り出し、新たな工程へ進むことができました。

また、社内有志で市販の部品を活用した小型ロボットを製作し、原子炉建屋内の調査も実施しています。未知のものに挑戦し、解決策を考える面白さがこの仕事の魅力です。



Q 今後チャレンジしたいことは？

A 現在は主にオフィスでのデスクワークや打ち合わせが業務の中心ですが、今後は現場での作業にも携わりたく考えています。実際の燃料デブリの取り出し作業や内部調査の現場で、自分が関わった装置が活躍する姿を見たいですね。福島第一原発の廃炉作業は世界的にも注目されるプロジェクトなので、技術者として最前線で貢献できるように挑戦していきたいです。

「東京電力 福島第一原子力発電所」  
見学レポート特集



高校生が現地で学ぶ  
廃炉作業

- 見学参加メンバー
- 正則学園高等学校3年 Y.Sさん
  - 正則学園高等学校2年 K.Wさん
  - 文京学院大学女子高等学校2年 M.Aさん
  - 文京学院大学女子高等学校2年 M.Oさん

安全・着実に進む廃炉作業の現場へ

東日本大震災に伴う事故から14年。福島第一原子力発電所（以下、福島第一原発）では、長期にわたる廃炉作業が進められています。現在1号機～3号機には、原子炉建屋に燃料が溶けて、周囲の構造物と混ざりながら冷え固まった「燃料デブリ」がいまも残っており、昨年、2号機において試験的取り出し作業が行われました。また、発電所の敷地内で浄化処理された「ALPS処理水」は、規制基準を満たした上で海洋放出されています。さらに、構内の放射線量は大幅に低下していますが、安全に十分配慮しながら、放射線量が高い環境での作業も続いています。

その福島第一原発を4人の高校生が訪れました。報道で目にしてきた原子炉建屋やALPS処理水のタンク群を間近で見学。さらに、発電所で働く若手社員へのインタビューを行い、「入社した理由は？」「仕事のやりがい？」「福島への思いは？」といった問いを投げかけました。

福島第一原発の現状と、これからのエネルギーのあり方について、私たちはどう向き合っていくべきなのか。4人が現場で見て、聞いて、考えたことを通じて、一緒に福島第一原発の「いま」と「これから」を考えてみましょう。

【見学スケジュール】

- 福島第一原子力発電所
  - ・ 1、2、3、4、5、6号機の外観の見学
  - ・ ALPS処理水関連設備の見学
  - ・ 緊急対策本部の見学
- 東京電力 新事務本館
  - ・ 装備品の試着体験
- 東京電力廃炉資料館
  - ・ 燃料デブリ関連の動画視聴、廃炉ロボットの見学

中面 福島第一原子力発電所の廃炉現場  
裏面 現場で働く若手社員の声

インタビュー後の感想



M.Oさん

**私も誰かの役に立ちたい**  
お二人とも入社理由として「福島の地域活性化や復興の役に立ちたい」と話されていて、感銘を受けました。私も誰かの役に立てるような大人になりたいと思いました。



M.Aさん

**熱い思いに触れられた**  
東京電力の活動や若手社員の皆さんの「地域の復興や活性化に貢献していきたい」という熱い思いに触れることができ、自分を見直すきっかけにもなりました。



Y.Sさん

**使命感を見習いたい**  
竹中さんの「原発事故がなかったらこの仕事をしていなかった」という言葉が印象的でした。高いモチベーションを感じ、仕事への熱量や使命感を見習いたいと思いました。



K.Wさん

**地元への思いに感動**  
佐藤さんのお話から「地元・福島を取り戻す」という気持ちを強く感じました。現地で働く人たちが、未来に向けて責任を持って行動していることがよく分かりました。



廃炉作業の状況を詳しく解説しています  
廃炉プロジェクト 検索



「福島第一原子力発電所は、今～あの日から、明日へ～」  
動画はこちら



採用に関する動画はこちら



# 東京電力 福島第一原子力発電所

# 世界も注目する 廃炉作業の現場をめぐる

廃炉に向けた作業が進む福島第一原発の構内には、国内はもちろん、海外からも多くの人々が見学に訪れています。このページでは、高校生たちが見学した施設や作業の進捗を紹介します。

## 海底トンネル

約1kmの長いトンネルを使ってALPS処理水を海洋へ放出



### 視察台「グリーンデッキ」



ALPS処理水を海水で薄めて放出する設備を観察することができます。

2023年8月からALPS処理水をトリチウムに関する国の規制基準や世界保健機関（WHO）が定める飲料水基準未満にまで海水で薄め、海洋放出をしています。

### ALPS処理水とは？

現在、1～3号機の原子炉建屋の中に「燃料デブリ」があります。この燃料デブリ等に、雨水や地下水等が触れることで放射性物質を含む「汚染水」が日々発生しています。この汚染水をALPS（多核種除去設備）等を使って、国の規制基準を満たすまでトリチウム以外の放射性物質を取り除いた水をALPS処理水と呼びます。

ALPS処理水に関するあらゆる情報は [処理水ポータルサイト](#)



## 緊急対策本部

震度7の地震が起きても緊急対応ができる共有施設

地震の揺れを抑える免震構造を採用。現在も緊急対策本部が置かれています。



## 新事務本館

廃炉作業のために建てられた事務施設



福島第一原発の構内に入る時には、警備員による厳格な人や物品の確認が実施されます。必要な防護服や装備は作業エリアによって変わります。出る時には、放射線測定などが実施されます。

## 入退域管理棟

構内に入ったりする人や物の安全管理を行う施設

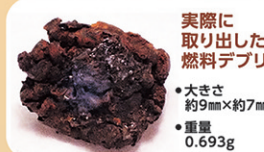


今回、特別に作業環境が最も過酷であるレッドゾーンの装着体験をさせてもらいました。装着には20分以上もかかりました。

## 廃炉作業は新たなステージへ

### 燃料デブリとは？

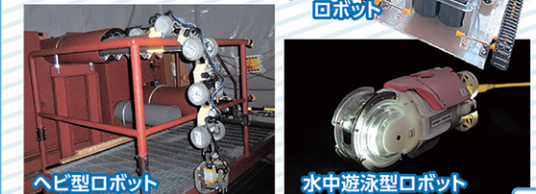
事故当時に動いていた1～3号機の中には燃料がありましたが、非常用電源が失われて冷やせなくなったため、高温になって溶けました。その後、周囲の構造物と混ざりながら冷え固まったものが燃料デブリです。1～3号機あわせて約880トンあるとされています。



実際に取り出した燃料デブリ  
● 大きさ 約9mm×約7mm  
● 重量 0.693g

## 最新技術を駆使し活躍するロボット

1～3号機の原子炉建屋は、放射線量が高いため遠隔から操作できるロボットも活用して作業しています。人が直接作業しなくても済むようになるので、放射線を浴びるリスクを減らすことができます。

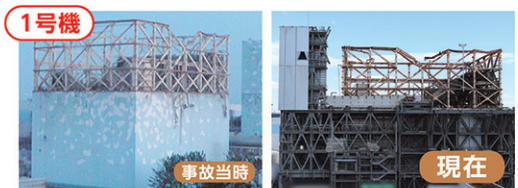


昨年、燃料デブリの試験的取り出しに成功したことで、廃炉作業は新たなステージへ大きく前進しました。今後はこれまでに得られた情報をもとに専用の取り出し装置を開発し、燃料デブリの取り出し規模を段階的に拡大していくことになっています。

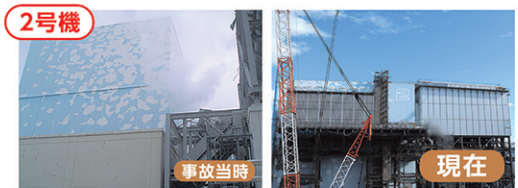
燃料デブリの作業について詳しくは [燃料デブリポータルサイト](#)



## 原子炉建屋 現在の廃炉作業の状況



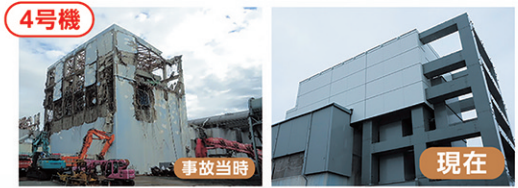
燃料取り出しに向け、ダストの飛散防止のために建屋をすっぽり覆う大型のカバーを設置しています。



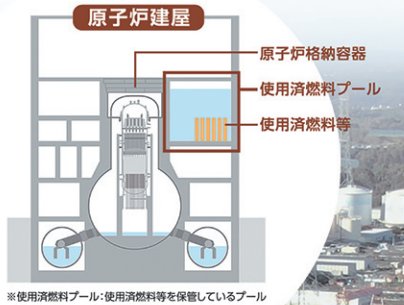
原子炉格納容器内からの2回目の燃料デブリ試験的取り出しに向け、準備作業が進められています。



2019年原子炉建屋内のプールから使用済燃料等の取り出しを開始し、2021年2月に、燃料デブリが残る号機としては、初めての燃料取り出しが完了しました。



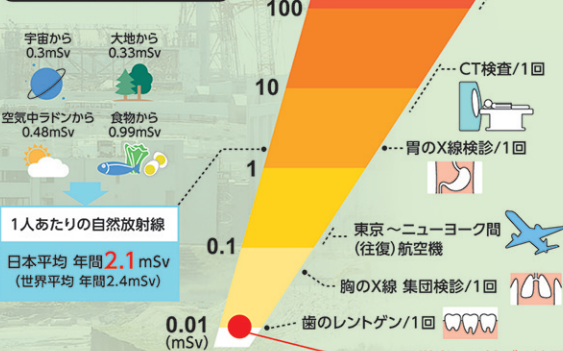
2013年11月原子炉建屋内のプールから使用済燃料等の取り出しを開始し、翌年2014年12月に、全ての燃料取り出しが完了しました。



※使用済燃料プール：使用済燃料等を保管しているプール

## 知ってる？

### 日常生活と放射線被ばく



\*シーベルト(Sv)：放射線が人体に与える影響の度合いを表す単位  
※単位は(mSv) (ミリシーベルト) 1mSv=1,000μSv(マイクロシーベルト) ※出典：放射線医学総合研究所資料等をもとに作成

## 気になる！この日の「被ばく線量」は？

意外と身近な「放射線」重要なのは有無ではない？



私たちは普段から身の回りには様々な放射線を受けて生活しています。放射線は、もともと自然界に存在するもので、健康への影響は放射線の「有無」ではなく「量」が問題となります。この日、見学した高校生たちの被ばく線量は0.01mSvでした。

## 参加生徒の感想

## 実際に現地を訪れて感じたことは？

### 現状を多くの人に知ってほしい

Y.Sさん  
原発について今まで特に興味も知識もなく、なんとなく「原発の周りは汚染されているから立ち入ることも出来ない」と聞きたりしてました。しかし、実際にはたくさんの方が特別な装備もなく仕事をしていて、防護服が必要な場所もかなり少なかったです。少しでも多くの人に正しい現状を知ってほしいと思います。

### 事故の深刻さを改めて実感

K.Wさん  
1・3・4号機の爆発跡をはっきりと見ることができ、実際に瓦礫が残っている様子を目の当たりにしたことで、事故の深刻さを改めて実感しました。しかし、こうしたエリアも今後はさらに安全になっていくと説明を受け、少し安心しました。今回の見学を通して、福島について前向きな気持ちで考えられるようになりました。

### 防護服は脱ぐのも着るのも大変！

M.Oさん  
（最も作業環境が厳しい）レッドゾーンの防護服は一人では着ることも脱ぐこともできないし、冬場もお風呂に入っているくらい暑くて、汗が流れました。靴下と手袋は3重にし、全身をビニールで覆い、衣服の隙間から汚染物質が入らないよう、ガムテープで何重にも巻きました。福島第一原発で働く方々の大変さを実感しました。

### 安全対策の徹底ぶりに驚き

M.Aさん  
テロ対策や汚染物質の持ち込み防止のため、驚くほど徹底した管理が行われていました。燃料デブリの取り出しに向け、様々な新しい技術が活用されていることも興味深かったです。テレビなどで見ていた対策本部を実際に訪れ、事故当時に現場で指揮を執り、作業をしていた方々の存在を忘れずにいたいと思います。